

§ 2 研究概要

本研究部会では、ハード的な技術追求だけでなく、人間の行動、社会のニーズをどれだけ計画に取り込めるかと云う、よりソフト的要素の技術向上が必要である。と言うことを活動初期に認識した、そこで人工地盤がより有効に使われるアイデアを出しながら、人工地盤の得失点を見いだす考えのもとに、計画を中心に研究を進めた。

研究の方法としてはケーススタディーとし、対象は計画が進められている物件に絞らずに、計画の難しさを知るためにも新しい計画を自由にやってみた。

なお、鋼橋技術研究会の主旨からも鋼構造をあくまで念頭に置き、以下の5つのテーマについて研究した。

① 都市交通

都市内で道路を新設しようとする、土地を確保するのは非常に困難なことである、その解決策の一つに立体道路制度ができ、これを活用して道路上空の利用法等を考える。

② 道路と鉄道の接点

道路と鉄道の接点は交通や物流の拠点となり、生活、文化の要素が凝縮されている反面、鉄道や道路によって地域が分断され、しかもスペースが不足する場所である。このような場所への人工地盤の有効性をねらった。

③ スーパー堤防

治水戦略として近年、堤防を高規格化をめざしてスーパー堤防が各地で作られ始めたが、単に土とコンクリートで堤体を作るのではなく、人工地盤を取り入れて、立体的な新たなスペースを提案した。

④ 大規模開発

都市内で大規模な開発が行われる際、限られた土地をいかに有効に活用するかが重要である。施設間の有機的なつながりや交通へのアクセス、また、ゆとりや安らぎのスペースの確保を人工地盤の利用により総合的に考える。

⑤ 道路と都市再開発

立体道路制度が施行され、再開発地などで道路と都市を立体的に活用することが今後の都市内の土地活用として有効な手法であると考え、再開発地への人工地盤の利用を検討する。

テーマごとにワーキンググループ（WG）を形成し、各グループごとに隔月程度に活動した。活動では見学会や模型を作りながら討議するなど各グループとも活発に活動した。また、部会全体として年に数回中間報告会と意見交換会の開催、立体道路推進機構の設計部長を招いての立体道路制度に対する講演会や、建設省・都市計画課交通調査室長を招いて、各グループの途中成果に対してのヒヤリングを実施した。これらの研究を整理し平成4年度の土木学会年次学術講演会に発表した。本報告書では研究成果と重複するが、学会で発表した成果も活動成果として敢えて掲載した。